様式第４号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第12回西脇市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時	令和６年10月31日（木） 午前10時から午前11時45分まで
開催場所	西脇市役所　大会議室
出席委員の 氏名又は人数	８名
欠席委員の 氏名又は人数	２名
出席職員の職・ 氏名又は人数	事務局３名
公開・非公開 の別	公開
非公開の理由	－
傍聴人の数	２名
議題又は 協議事項	１　まち・ひと・しごと創生会議の運営について ２　西脇市まち・ひと・しごと創生総合戦略について ３　その他

会議の記録（概要）	
発言者	
事務局	＜開会＞ ○資料確認 ○会議成立の報告 １　まち・ひと・しごと創生会議の運営について ○委員委嘱・委員紹介 ○会長選出 西脇市まち・ひと・しごと創生会議条例の規定に基づき、三宅委員を会長に選出

	○会長あいさつ
会　長	会長に御指名いただいた。本日のテーマである人口問題は非常に難しい課題であるが、地域が持続可能な状態で、住民が元気に過ごしていくために、どのようなことが重要かを議論することは大切である。また、新しい働き方や住み方に関しても考慮する必要があるため、固定観念にとらわれず一緒にアイデアを出していただきたい。さらに、大学進学などを機に流出してしまった人に、また地域に戻ってきてもらうため、郷土愛を育むことなども重要となる。西脇市の将来にかかわる議題であり、各委員の専門分野や関心の高い分野で忌憚のない意見をいただきたいと思う。よろしくお願いする。
	２　西脇市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
	【地方創生と西脇市の取組について】
事務局	資料２に基づき、事務局から説明
会　長	事務局から説明があった。質問、御意見などをお願いしたい。
委　員	資料２Ｐ14で、こども未来応援事業の紹介があった。これは県内初の取組であり、非常に良い事業だと思う。この取組に関して、塾以外の習い事にも活用が可能かどうか、また、実際にこの制度がどの程度活用されているのか聞きたい。
事務局	この制度は、スポーツや音楽教室など、社会教育全般を含む塾・習い事に活用いただける。対象となる多くの世帯で利用いただいており、現在約 100人の児童がこの制度を活用している状況である。
会　長	資料２Ｐ16では、空き家活用の事例が紹介されたが、これらはいわゆる古民家に相当するものか聞きたい。
事務局	平成28年ごろから空き家バンクの運営を始め、登録件数は徐々に増加している状況である。一方で、空き家の増加

	という課題も感じている。また、古民家と呼ばれるような伝統や趣のある家屋は限られており、良質な物件が安く登録されるとすぐに購入されるような状況である。 【人口動態と人口減少対策について】
事務局	資料２に基づき、事務局から説明
会　長	事務局から説明があったように、地方創生の大きな課題である人口減少は深刻な問題である。抜本的な解決策はなく、より深刻化しているような状況である。各委員の専門分野、関心の高い分野で自由に御意見をいただきたい。
委　員	全国的に少子化が進行しているというデータが紹介されたが、出生率が改善している自治体があれば、その具体的な事例について紹介してほしい。
事務局	出生率は地域差が大きく一概には言えないが、西高東低の傾向がある。特に九州・沖縄地方は出生率が高くなっている。また、大都市の出生率は非常に低くなっており、東京都では出生率が１を下回る状況で、大阪府や京都府も低く、県内では神戸市の出生率が低い状況である。 出生率が改善している地域として、岡山県奈義町が有名である。この地域では、地域全体で子どもを育てることを特色としており、出産・子育てしやすい環境が、若い世帯から選ばれているようである。一方、子育て支援に力を入れるという点では、近隣市でも様々な取組が行われているが、それに伴い出生率が向上しているわけではないため、必ずしも子育て施策と出生率がリンクするわけでもないと感じている。
委　員	資料２Ｐ24で、加東市と小野市の人口減少率は西脇市や加西市に比べて少ないが、どのような理由があるのか知りたい。
事務局	複合的な要因があると思うが、例えば小野市では、子育て支援において全国的に有名な明石市よりも先んじて、小児医療の無償化などが実施されたことにより、「子育てするなら小野」というイメージがあるように思う。現在では

	小野市以上に充実した取組をされている近隣自治体もあるが、良いイメージが先に定着したことは大きい。また、鉄道も通っており、三ノ宮まで１時間圏内と通勤可能な範囲で、利便性が一定程度高いことが人口減少の抑制につながっていると考えている。 加東市に関しては、外国人の流入が大きな要因の一つであり、本市の２～３倍程度の外国人が居住している。また人口規模は本市と同程度であるが、工業団地や大学が立地している関係で、本市の 1.5倍以上の転出入数があるなど、本市とは異なる都市構造を持っており、そうした環境が、緩やかなコミュニティを望む若い住民に受け入れられている可能性がある。また、西脇市よりもかなり後に発展したことで、計画的な都市づくりが可能であり、整然としたまちなみを形成し、最近では宅地やアパートが多く供給されていることも影響しているのではないかと思う。長期的に見て、このような流れが続くかは不透明であるが、こういった様々な要因から小野市や加東市の人口減少率が西脇市や加西市に比べて少なくなっていると考えている。
委　員	行政においては一般的に和暦を使用されるが、和暦と西暦は混在せず、できれば西暦で統一して欲しい。 東京都では人口が集中し、出生率も１を下回って人口減少に拍車をかけていることから、もう少し自分たちで改善してほしいと思う。東京圏に住む知人からは、保育園の確保が難しいことや、住宅費が高額といった悩みを聞く。人口が集中する東京都においても、出生率が向上し、日本全体では人口減少が進まない状況になってほしいと思う。 出生率の議論では、女性の行動に焦点が当たることが多いが、「仕事」が一番重要だと考えている。例えば、大学で専門的な知識やスキルを習得した人が活躍できる仕事が西脇市にあれば、再び地域に戻る意欲が高まると考える。
事務局	専門的な知識を学んだ後、地方では、それらを生かせる仕事がない点は課題だと感じている。
委　員	自身が西脇市に来たきっかけは、半導体製造会社がプログラマーを募集していたためであった。知識やスキルを生かせる仕事の存在は転職のきっかけになると思う。

委　員	インナーウェアの製造会社に勤めているが、海外の支店を含めると、従業員数は 2,000人を超えている。西脇市内の事業所がパイロット的な役割を果たすため、技術開発部門や商品開発部門、システム部門など、大学で学んだことを生かせる仕事がある。しかし、学生を募集しても応募がない状況が続いている。社宅を用意するなどの取組を行っているが、新卒の学生を採用することは依然として難しい。最近の傾向としては、一度都市部に出た後、地縁があって戻ってきた人を採用するケースが増えている。こうした人に対して、働き先の周知や住まいの支援を行うことには大きな可能性があると感じている。
会　長	どのような人材を求めているか教えてほしい。
委　員	どの職種でも人材は必要であるが、特にエンジニアを採用したい。また、地元の人を採用することができれば理想的である。
会　長	兵庫県出身者の中で、特に田舎出身の学生がエンジニアになることは少ないのか。
委　員	具体的な進学先や割合は把握していないが、総数として理系人材が少ないと感じている。
会　長	国も理系人材を増やす方針であるが、まだまだ少なく、理系の人をどのように引き寄せるかは重要だと思う。 海外にも支店があるとのことであったが、例えば海外との折衝能力などをもった人材を自社で育てているのか。
委　員	そういったスキルを持つ人が転職してくることもあるが、自社で育成するケースもある。
会　長	語学が得意な学生でも、流暢にコミュニケーションを取れることは少ないと思うが、そういった学生でも海外を含めた活躍が可能か。
委　員	高い語学力が備わっていないような状態からスタートすることが多い。語学は使わなければ伸びないため、希望者には早期から海外出張に同行させ、先輩から商談を学ぶ機

	会を与えることで、一人で活躍できる人材へと成長させることが可能である。
委　員	資料２Ｐ25で、西脇市に北海道や中国・四国からの転入があるとなっているが、これはどのような動きか。例えば、播州織に関連したデザイナー等の流入があるのか。
事務局	西脇市からの転出者の多くは大阪府や京都府、県内に集中している。それ以外への転出入の要因は、転勤など個別の事情によるものと認識している。なお、先ほど半導体製造工場の話が出たが、その工場が閉鎖された際には、多くの人が別の事業所のある中国地方に転出したということがある。
委　員	資料２Ｐ30で、女性が転出する背景について説明があった。自身も地方の出身で、大学への進学を機に首都圏へ転出し、全国転勤のある職種に就職。現在は神戸市にいることを考えると、この傾向は理解できる。出身地を好ましく思う一方、仕事の場所としては考えていないように思う。特に現在の年齢では、インフラや利便性など、都市圏に居住する方が生活の質が高く、魅力に感じている。 都市圏以外で移住先に選ばれている地域には、インフラや病院、買い物といった環境が整備されていること、自治体の支援制度があること、地域の魅力があることの３つが揃っていることが特徴だと感じている。西脇市では、様々な地方創生の取組がされており、自治体の支援制度は充実していると思うが、環境整備や地域の魅力といった面で、改善の余地があると感じている。魅力的な文化や産業があるため、ブランディングや情報発信に力を入れていくことも大切だと思う。 また、企業誘致も１つの大きな手段だと思うが、最近の学生は、就職先を選ぶ条件として福利厚生を重視する傾向があると聞いている。全国に支店があるネットワークを通じて、中小企業やその組合を支援し、福利厚生メニューの案内や、組合間の交流・接続などを行っている。地域を代表する企業のみならず、地域活性化に少しでも貢献できればと考えている。
会　長	私のゼミには、女子学生が多いが、地元のことを話す学

	生は少ないように思う。県内出身者は神戸市や姫路市、県外出身者は兵庫県内に留まる傾向が強いと感じている。
委　員	私の子どもは現在高校生で、大学進学の際は市外に出る必要があるものの、特に都会には行きたくない、西脇の方が良いと感じているようである。
会　長	別の自治体の話であるが、隣接する２つの集落で子どもが戻ってくる割合が大きく異なる事例があった。低い方の集落は、親が「こんなとこおったらあかん」と言い続けていたようで、子どもに対してどのような声かけをしながら育てるか、という点は非常に重要だと感じた。
委　員	私が都市部から移住してきたこともあり、私の家庭では「西脇は田舎やからあかん」といった否定的な言い方はしていない。都市には都市の、田舎には田舎の良さがあると思っている。また、西脇にはスーパーやコンビニ、病院などが揃っており、インターネットも活用できるため、生活する上で特に困っていない。実感を踏まえて言えていることで、子どもにもその思いが伝わっていると思っている。 一方、田舎出身で田舎に住んでいる人は、比較的ネガティブな表現をしていることが多いように思われ、それが子どもの意識にも影響を与えているのではないかと考えている。
会　長	これは反省すべき点だと思う。
委　員	兵庫県では県民意識調査を行っている。「住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合」では、兵庫県の平均が60％以上であるのに対し、北播磨地域は52.2％と低くなっている。地域の人の意識を変え、シビックプライドを醸成することも大切だと思う。
事務局	「兵庫のゆたかさ指標」については注視している。調査結果によれば、都市部の人々の方が地域に対する愛着が強い傾向にある。西脇市でも同様の項目でアンケート調査を行っており、そこでの意見は比較的好意的である。西脇の人の特徴として、「口では文句を言いながら、心の中では好き」といったところがあるように感じている。

会　長	自身も田舎の出身であることから、子どもに対してネガティブなことを伝えていたように思う。意外に都市部で暮らしていた人の方が田舎を評価してくれているように思う。昔からの固定観念もあると思うが、子どもたちへの伝え方などを変えていく必要があると感じている。
委　員	テレビなどで描かれる都市部のイメージは華やかで、仕事ではそういった場所に行くこともあるかもしれないが、実際に住む場所は雑然とした地域になることが多い。それに比べると、田舎は空気がきれいで住居も広く、庭もあるため魅力的であると感じている。そういった事実も含めて子どもと話すようにしている。
会　長	この視点は非常に重要であると思う。
事務局	資料２Ｐ38で、西脇市の未婚率の状況についてお示ししている。これに関連し、現在の結婚支援の状況や子育て支援の取組などについて、委員からご紹介いただきたい。
委　員	結婚支援を行っているが、婚活パーティーを開催すると多い時には10組程度のカップルが成立する。しかし、これらのカップルの多くが長続きせず、婚姻に至らないことが課題である。参加者は結婚に前向きであると考えられるが、実際に結婚を実現することは難しいと感じている。 ＮＰＯでは、みらいえで子どもたちの学習や遊びの支援を行っている。みらいえが子どもたちの放課後の居場所となっており、「みらいえに帰ってくる」といった子も多くいる。近隣自治体ではこのような活動がなく、羨ましいという声も聴いている。また、夏休みには、各地域で宿題支援などを行っており、大変好評であるが、通常時はみらいえを中心とした活動となっているため、地域に分散した活動を希望する声もある。
委　員	私は子どもが成長し、子育てを終えた世代になるが、様々な子育て世代との関わりを通じて、自らの子育て期との違いを実感している。西脇市では多様な取組が行われているが、支援を必要としている家庭がその制度を知らないことは課題であると思う。そのため、そのような家庭に対し

	て、支援制度などを伝え、活用してもらう活動をしていきたい。
会　長	事業の周知が進めば、より多くの効果が期待できると思う。
委　員	子どもが受験生であった時期には、勉強のためにずっとみらいえの自習室を利用していた。みらいえのように綺麗で無料で利用できる施設は他の自治体にはなかなかないと思う。非常にありがたい存在であった。
委　員	私は離れた地区に住んでいるため、そのような施設が近くにあれば良いと羨ましく思っている。
事務局	重春・野村地区においては、みらいえが地域の魅力の一つになっていると思う。担当部局も、サテライトを設けて多極化を図っているが、より多くの利用者に訪れてもらうためにもう一工夫必要という課題意識を持っている。現状では、みらいえが子育ての不安を解消する入口として、また、情報発信やつながりづくりの入口として機能できれば良いと考えている。
会　長	みらいえから遠い地区の子どもたちはどこで勉強をしているのか。
委　員	自宅や学童保育で勉強をしていると思われる。子どもの数が少なくなり、以前に比べて子どもの声が聞こえなくなったと感じている。
委　員	幼少期から訪れることができるみらいえは非常に魅力的である。また、小学校から高校までが近くにあるほか、様々な施設が狭い範囲で揃っており、野村町内から出ることなく高校卒業まで過ごすことができてしまうくらい利便性が高いと感じている。特に、西脇市内に高校が３つも立地している点は、地域の大きなアピールポイントだと思う。 【総合戦略と総合計画の改定について】
事務局	資料２に基づき、事務局から説明

委　員	資料２Ｐ44に「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会の実現」とあるが、これは国のフレーズか。
事務局	そのとおりである。岸田政権となった際に、地方創生がデジタル田園都市国家構想へと名称が変わり、デジタルの力を使って地域を元気にしていくような方針になった。先の総裁選で石破政権となり、また地方創生へと変わっていきそうな流れはあるが、デジタルを活用するという大きな方向性は変わらないと考えている。
会　長	総合計画と総合戦略を連動させて策定することについて異議はないか。
委　員	（異議なし）
会　長	反対意見はないため、総合計画と総合戦略を連動させて策定する方向で作業を進めてほしい。 ３　その他
事務局	活発な御意見や御質問をいただき感謝申し上げる。 国の方向性にも注視しながら今後の作業を進めていきたい。 ＜閉会＞
問合せ先	西脇市市長公室政策推進課 TEL　0795－22－3111　／　FAX　0795－22－1014